

## 東邦ガスにおける生物多様性保全への取り組み

北本 都美 高見 千保美

東邦ガス株式会社 〒456-8511 愛知県名古屋市熱田区桜田町19-18

### Initiatives for Biodiversity Conservation in the TOHOGAS

Tsuyoshi KITAMOTO Chihomi TAKAMI

TOHOGAS CO., LTD. 19-18, Sakurada-cho, Atsuta-ku, Nagoya, Aichi 456-8511, Japan

Correspondence:

Tsuyoshi KITAMOTO E-Mail: kitamoto@tohogas.co.jp

#### 要旨

生物多様性の保全に向けた取り組みは、持続可能な社会のベースとなるものであり、企業の持続的発展に影響する重要課題と認識している。当社グループでは、生物多様性保全に向け、ビオトープの設置や自然保護活動、地域社会と連携した環境保全活動などを推進するとともに、次世代層をはじめ地域の皆さまに生物多様性保全への関心を深めていただくため、次世代層向け生物多様性学習プログラムに取り組んでいる。

#### 1. はじめに

日々の生活や企業活動は、自然資源に支えられており、その基盤である生物多様性が失われた場合には、人々の生活や企業の持続可能性に大きな影響を及ぼすことが想定される。

当社グループでは、地球温暖化対策や資源循環推進に加え、地域の生態系の保全は企業の持続的発展に影響する重要課題と認識し、ビオトープ設置や自然保護活動などを通じて生物多様性保全に努めている。

#### 2. ビオトープの設置

地域の希少種および固有種の育成など生態系保全への貢献や環境教育の場の提供などを目的に、2000年に「知多緑浜工場ビオトープ」、2010年に「ガスエネルギー館ビオトープ広場」を設け、2018年には「みなとアクルスビオトープ」を配置している。

また、ビオトープにおける生物多様性の保全機能の健全性確認などのため、専門業者による動植物調査を断続的に実施している。

#### 2-1. 知多緑浜工場ビオトープ (写真1)

知多緑浜工場は、知多市新舞子の北西の出島状の埋め立て地にあり、知多市の臨海工場地帯の最南端に位置している。対岸には社寺林や田畑、他社工場の緑地帯などがあり、緑地環境としてビオトープネットワークをなしている。

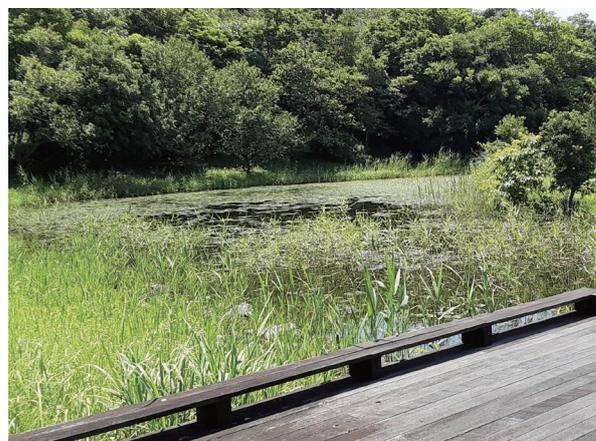


写真1. 知多緑浜工場ビオトープ



写真2. ガスエネルギー館バイオトープ広場



写真3. みなとアクルスバイオトープ

こうした周辺の緑地環境を踏まえ、地元のトンボの種類や生息環境、地元の樹種や樹林の遷移などを手本に、池の深さや形状、樹種、配置区分、植栽時と15年後の樹高・植栽密度などを検討（高見・中村，1999）、知多緑浜工場の工場緑地内部に、「できるだけ自然に近い緑地帯」を目指したバイオトープを造成した。面積は、連続的につながる緑地と合わせて7,500m<sup>2</sup>ある。

造成当初から動植物調査を断続的に行い、2015年には402種の動植物を確認している。これまでの動植物調査の結果を表1に示す。

## 2-2. ガスエネルギー館バイオトープ広場（写真2）

ガスエネルギー館は、名古屋市から天白大橋を渡ってすぐの東海市にあり、従来、名古屋市内の小中学生の社会見学やご家族連れのお出かけスポットとして楽しまれている。この敷地内におけるブロック張りの「いこいの

表1. 知多緑浜工場バイオトープの動植物調査

観察年	2002	2004	2010	2015
植物	115	118	176	206
昆虫類	115	100	140	152
鳥類	17	20	17	21
魚類	2	1	0	0
両生類	3	2	1	1
爬虫類	0	0	0	1
底生生物	18	18	23	20
哺乳類	0	1	1	1
計	270	260	358	402

広場」を改修し、池と草地と植樹からなるバイオトープ広場（600m<sup>2</sup>）を造成した。現在は池の中の生き物探しなどのイベントも行っている。

## 2-3. みなとアクルスバイオトープ（写真3）

みなとアクルスは、名古屋市港区に位置し、西側には中川運河、南側には港北公園があり、名古屋港までは約2 km程度である。

みなとアクルスの敷地内には、三井不動産（株）がバイオトープ（800m<sup>2</sup>）を整備している。庄内川流域を目標景観に定め、庄内川流域に見られる中木や低木を植栽として配置することで、せせらぎや生体池に、野鳥、チョウ、トンボなど様々な野生生物の飛来を期待して整備したものである。

当社は、このバイオトープとエリア内のエネルギーネットワークについて子どもから大人まで楽しく学べるエコツアーを実施し、環境教育の場として活用している。

バイオトープにおける動植物の生育・生息状況について把握するため、バイオトープ配置から2年後の2020年9月に動植物調査を行い、植物は108種、動物では、鳥類6種、両生類1種、底生生物12種、昆虫類83種の計210種が確認された。

特に、現地ではトンボ類が飛翔する姿が頻繁に観察されている。池内で確認されたヤゴを含めたトンボ類の確認種は表2に示すとおりであり、バイオトープ広場の面積は小さいものの、計10種が確認されている。トンボ類の生育には、産卵や幼虫（ヤゴ）が生息する水生植物のあ



写真4. 「東山の森」での活動



写真5. 「東邦ガスの森 せと」での活動

る水辺環境、成虫が餌を採ったり休息したりするための樹林環境や草地環境など多様性ある環境が必要であり、みたとアクルスビオトープは、トンボ類が生息するための環境を有しているものと考えられる。

### 3. 自然保護活動

従業員の環境教育や地域社会への貢献などを観点に、地域のご協力のもと、従業員のボランティアによる自然保護活動を推進している。

表2. トンボ類の確認種

分類	和名	学名
成虫	アジアイトトンボ	<i>Ischnura asiatica</i>
	アオモンイトトンボ	<i>Ischnura senegalensis</i>
	ハラビロトンボ	<i>Lyriothemis pachygastra</i>
	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>
	ウスバキトンボ	<i>Pantala flavescens</i>
	マイコアカネ	<i>Sympetrum kunckeli</i>
幼虫 (ヤゴ)	アオモンイトトンボ属 の一種	<i>Ischnura</i> sp.
	クロスジギンヤンマ	<i>Anax nigrofasciatus nigrofasciatus</i>
	ギンヤンマ	<i>Anax pathenope julius</i>
	ショウジョウトンボ	<i>Crocothemis servilia mariannae</i>
	シオカラトンボ	<i>Orthetrum albistylum speciosum</i>

#### 3-1. 森林保全活動

地域の自然環境や生物多様性の保全に加え、保全活動を通じた従業員の環境意識啓発を目的に、従業員とその家族のボランティアによる森林保全活動を実施している。

活動の例として、「なごや東山の森づくりの会」に法人会員として参加し、名古屋市の「東山の森」において間伐などによる里山保全活動を、2009年度から実施している（写真4）。

また、2016年度から「東邦ガスの森 おおだい」と「東邦ガスの森 みたけ」を活動地として、2020年度には「東邦ガスの森 せと」を活動地に加え（写真5）、地元森林組合のご支援などをいただきながら、植樹や間伐、下刈りなどの森林保全活動に取り組んでいる。

#### 3-2. イベント参加などを通じた活動

地域社会の一員として、イベント参加などを通じた環境保全活動に参画している。

活動の例として、名古屋市東山動植物園における「植物園花いっぱいプロジェクト」に、2008年度の活動開始から継続して参加し、従業員とその家族のボランティアによる花苗などの植栽を実施している（写真6）。

また、知多半島臨海部の企業緑地群を舞台に、生物多様性の保全向上と次世代の担い手育成を目指す「命をつなぐPROJECT」に参画しており、連携企業や学生実行委員と協働して緑地の魅力を高めている。



写真6. 「植物園花いっぱいプロジェクト」での活動

#### 4. 次世代層向け生物多様性学習プログラム

次世代層をはじめ地域の皆さまに生物多様性保全への関心を深めていただくため、生物多様性学習プログラムに取り組んでいる。2020年以降は、コロナ禍によりさまざまな制約がある中で、参加人数の絞り込みやリモート開催などの工夫をして実施している。

活動の例として、「持続可能な地球社会」を支える人づくり、人の輪づくりを目的に、2005年に開学された「なごや環境大学」に講座登録し、ガスエネルギー館のビオトープ広場などを活用した生物多様性講座を開催している（写真7）。

また、愛知県とNPO法人が愛・地球博記念公園で開催する自然とのふれあいをテーマとした環境イベント「おさんぽdeいきものみつけ」に2011年度から協賛し、企画・運営に協力している（写真8）。

#### 5. まとめ

気候変動に次ぐリスクとして生物多様性への社会的な関心が高まっており、TNFDなど国際機関を中心に生態系保全に対する取り組みが進められている。

このような社会的関心の高まりや生態系保全の重要性



写真7. 「なごや環境大学」講座での活動



写真8. 「おさんぽdeいきものみつけ」での活動

などを踏まえ、当社グループは環境行動目標の一つに生物多様性保全を掲げ、地域社会を支える生態系保全に取り組むとともに、引き続き、事業活動や地域貢献活動を通じた生物多様性の維持・復元、里山・森林の保全、地域固有種の保護に貢献していく。

#### 引用文献

高見千保美・中村泰久. 1999. 生態系を考慮した植樹方法の検討. 自然環境復元研究会平成11年研究発表要旨集, 15p.